

米国の社会保障身体障害保険 SSDI (Social Security Disability Insurance)

最初の PPS フォーラム (POST-POLIO FORUM: 2000年12月) で、私は、社会保障庁 (SSA) の担当者にポリオの遅発効果の評価を定めた実行計画である「POMS」に関して、こちらのお話を理解してもらうために、どのように「Social Security Disability Insurance (SSDI) 申し込み」の手続きをするべきかを説明しました。この手続きはポリオの経験者が SSDI を得る時に、今でも大変役に立っています。運悪く SSDI を認められなかった

ポリオ経験者も何人かはおりましたが、それは、面接員、審査員、身体障害を決める医師、担当官が-----また、行政法の判事も社会保障上告審議会自体までもが-----POMS があることを知らなかったり、あるいは POMS の指針に従っていなかったからです。そのうえ悪いことは、1985年に POMS が定められて以降の PPS の研究成果が、何ら反映されていないことです。

<用語解説>

SSDI: Social Security Disability Insurance 社会保障身体障害保険 (米国連邦政府が運営する社会保障の保険料によって賄われる身体障害者のための補償制度)

SSA: Social Security Administration 米国連邦社会保障庁

POMS: "Program Operation Manual System" for Evaluation of "The Late Effects of Polio (24580.010)". SSA can and does grant SSDI for polio survivors. ポリオの遅発効果の評価を定めた実行計画 (24580.010)。社会保障庁はポリオ経験者に対して、社会保障身体障害保険の補償をする権限を有し、補償を交付する。

POMS を最新版に改定し範囲を広げ、不適切な拒否を無くすために、SSA のジョアン・バーンハート長官は 2003年7月3日、新しい規定で POMS を置き換えました。それが、"Social Security Ruling, SSR 03-1p.; Titles II and XVI: Development and Evaluation of Disability Claims Involving Post-polio Sequelae." (社会保障規定, SSR 03-1p.; タイトル II 及 XVI: ポストポリオ症候群を含む身体障害資格の範囲拡大と評価) である。したがって今では、社会保障庁の担当官はポストポリオ症候群の症状と (医師の) 診断について最新の情報を持っていて、PPS によって仕事ができなくなってしまうかどうかを決めるためのチェック手続きにも明確な指針を持っています。

この新しい規定によれば、“精神的な疲労”----- 注意力、集中力、記憶力、根気や忍耐力不足の問題が、筋衰弱の問題よりも、仕事ができなくなる第一の原因であると明確に決められている。この規定は初期の進行性の変形性関節症、睡眠障害、呼吸機能不全も身体障害の原因になっている。

その上重要なのは、PPS の症状にともなう精神的な影響は、不安からくる無力感、うつ病情緒の不安定、引きこもりなどにつながる可能性があるということ、初めて認めたことである。この規定に従えば、どれか一つの症状か、これらの症状の組み合わせによって、SSDI の補償交付の根拠となりうるのです。

何十年も前に急性ポリオに罹ったという記録は、ポリオまたは PPS を診断するのに必ずしも必要ではないとこの規定は明記しています。また、麻痺にまで至らなかったポリオ経験者の場合にも PPS がでて、それにより身体障害になることがあるとしています。筋電図検査法 (EMG) や疲労感を文書化するための繰り返し試験などは、もはや PPS の評価プロセスにはありません。この規定は、あなた自身の医師と精神分析医が、PPS かどうか、働くことが不可能かどうかを決めるとも明記しています。ですから、医師の方々はあなたの PPS の症状がどれほど物理的および精神面での生活に影響を及ぼしており、そのため働けなくなっているということを記した手紙を SSA 向けに書かねばなりません。あなたの医師の書面-----タイプしてある病歴カルテや健康診断結果でさえも-----を送るのでは十分ではありません。

この規定には、いわゆる“諮問委員会検査”(社会保障庁によって指定された医師のところに行くよう要求されること)は、あなたの医師と精神分析医が、あなたの状態についての質問に回答できなかった場合だけに採用されると明確に記されています。もしも、“諮問委員会検査”が要求される場合は、ポリオとポストポリオ症候群の知識が豊富な医師と精神分析医によって(もしも、そのような専門家に診てもらえるならば)、実施されなければならない。

残念ながら、新しい規定の公開と 2003 年 8 月の特別なビデオ・トレーニングがあったのにもかかわらず、この規定が存在すること

を知らず、この規定の要求事項に全く従わない SSA の担当官がまだたくさん存在します。ですから、postpolioinfo.com ("Social Security Disability Information"をクリックする)に記されている様に、SSDIに申請するための手続きに従うこと、または、拒否に対して上告することが非常に重要なのです。申請手続き、または拒否に対する上告には、必ずこの規定のコピーを一緒に付けることが必要です。どんな苦痛でも、それにふれるのは依然として良い方策ではありませんし、もちろん、不安からくる無力感、うつ、情緒不安定、引きこもりなどについても、そういうものがあなたの仕事を出来なくさせている主たる原因でないならば同じです。SSA の担当官が、新しい規定を読むこと、またはこの規定に従うことを拒絶する場合には、担当官の長である社会保障庁医療政策局長に電子メールをしてくれるように、あなたのあるところの下院議員と上院議員に依頼すべきです。

2000 年の時点で私はこういいました。「SSDI に申請するのは、もし規定にきちんと従った場合なら勝てるような一種の“ゲーム”の様なものです」。新しい規定は前よりもずっとそれが当てはまります。SSDI に申請するためには弁護士さんは必要ありません、拒否に対して上告する場合でさえも必要ないかもしれません。PPS に対する社会保障庁の新しい規定は、あなたの道路地図であり、あなたの剣です。最後になりましたが、私どもの要望が受け入れられる状況にほんとうになっているのです。(完)



“NBC での取材中”

リチャード・ブルーノ (Richard L. Bruno) 博士
International Post-Polio Task Force の会長
The Post-Polio Institute と International Centre for Post-Polio
Education and Research (Englewood (NJ) Hospital and Medical
Center) の理事
E-mail : ppsforum@newmobility.com